

あらゆる材質、あらゆる曲面へ 思いのままに印刷可能



たかの は 鷹羽産業株式会社

あらゆる面へ応用可能 精密グラビアプロセス

あらゆる材質や曲面に印刷できる、特殊精密印刷機の製造技術を持つ鷹羽産業。昭和47年の創業以来、特殊精密印刷機に特化してきた。現在では、商品のパッケージのみならず様々な製品において、常に新しいデザインが必要とされている。同社の技術は従来では不可能な素材や平面、曲面、凹凸面など、困難な形状に対しても高度なデザイン印刷が可能である。

同社独自の「JKシステム」と呼ばれる精密グラビアプロセスは、三次元曲面への対応が容易で、超精密かつ超高速で多色印刷が可能なのが特長。従来の印刷分野だけでなく、全面塗装に換わる印刷技術としても利用され、メッキへの応用研究も進んでいるという。

「印刷技術の応用による塗装は、大規模な設備も必要なく、大気汚染や従業員の健康面への影響も少ないのが特長です。乾燥や処理も早く、簡単に行えるため、海外で塗装するよりも、安く、コストが3分の1になったケースもあります」と阪本行社長は話す。海外の工場へ流出して

いた仕事に戻ってきた例も少なくないのだという。

同社の持つ技術は、海外企業からも多数の引き合いがあるが、「日本のものづくりを支援したい」との思いから、海外企業への技術提供には慎重だ。

15μmの極細線を印刷

同社の技術革新は止まることを知らない。現在では15μmレベルの極細線を自由自在に印刷できる、世界一ともいえる技術を持つまでになった。応用分野も多岐にわたり、「印刷」という言葉に収まることのない活躍をみせる。

「プリント基板を作ったり、太陽電池の性能を大幅に向上したり、印刷技術の応用範囲は無限です」と阪本社長。「エネルギー問題の解決が、地球の重要課題」との考えから、太陽電池事業には特に力を入れていく。

太陽電池は、エネルギーへの変換効率の高効率化を求めて、太陽光の当たる表面積の拡大競争が行われている。その課題は、電線部分の省面積化。同社の技術が、困難な課題の一つの答えを示した。電線部分を極細線にすることで、従来より電線部分の面積を30%も減少させることができたのだ。

「電線部分の面積の縮小化のほか、使用する銀やシリコンを少なくすることで、コスト削減にも成功しました。新技術を使った太陽電池は、十分実用レベルに達しています」と阪本社長は胸を張る。しかし、なか

なか新技術が広く採用されるに至らないのが現状だ。

「国内の企業にもっと頑張ってもらいたいと考えていますが、日本企業は変化をあまり好まず、新技術の採用に尻込みする傾向があります。海外企業の方が行動力があり、決断力もあります。海外に負けじと奮起して、新技術やプロセスの採用も積極的にやっていただきたいと思っています」と阪本社長。

日本の企業と手を組み、海外に負けないものづくりを進めるのが鷹羽産業の理想なのだ。

主な事業内容

特殊印刷機の設計・製作・販売、特殊印刷用副資材の製造・販売等



阪本 行さん
代表取締役社長

鷹羽産業株式会社

Company Profile

住所 / 〒558-0023
大阪府大阪市住吉区山之内3-8-11
設立 / 昭和47年5月
資本金 / 2,500万円
従業員 / 16名 (平成21年1月現在)
TEL / 06-6693-2703
FAX / 06-6695-0014



<http://www.takanoha.co.jp/>